

# 社会科学習指導案

## 1 単元名 安全な暮らしを守る 「2 事故や事件をふせぐ」(全 11 時間)

## 2 単元の目標

- ・事故や事件から地域の人々の安全を守る活動について、関係機関は地域の人々と協力して、事故や事件の防止に努めていることや関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることを見学、調査したり資料を活用したりして調べ理解し、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考え、表現する。

## 3 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
①事故や事件から地域の安全を守る活動に関心をもち、意欲的に調べている。 ②地域社会の一員として、事故や事件から人々の安全を守るための活動に協力しようとしている。	①事故や事件から地域の安全を守る活動について、学習問題や予想、学習計画を考えて記述している。 ②人々の安全を守るための関係機関の働きと、仕事に従事している人々や地域の人々の工夫・努力の大切さを考え、根拠を示して説明している。	①警察署を観点に基づいて見学したり、地域の人などから話を聞いたりと、事故や事件から地域の安全を守る活動について必要な情報を集め、資料を読み取っている。 ②調べたことをグラフや白地図、作品にまとめている。	①関係の諸機関が相互に連携して事故や事件に対応する体制が築かれていることや、地域の人々の安全を守る活動の大切さを理解している。 ②関係機関が、地域の人々と協力して事故や事件の防止に努めていることを理解している。

## 4 単元について

### <学習指導要領の記述>

(4) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。

ア 関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること。

イ 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること。

## 5 単元構想図 安全なくらしを守る 「2 事故や事件を防ぐ」(全 11 時間)

であう  
1 時間

### ①交通事故を防ぐために道路にはどのような工夫があるのだろう。

- ・何の標識かな。見たことあるよ。 ・ゾーン30というのは自動車30km以下で走る区間のことだ。
- ・駐車禁止の標識だね。 ・自転車と歩行者が別々に歩く場所の標識だ。 ・決められた時間は歩行者しか歩けない場所があるね。
- ・一時停止の標識は英語でも書かれるようになってきたね。 ・交通事故を防ぐために様々な標識があるね。
- ・わたしたちの校区にも交通事故が起きそうな場所ってあるのかな。→②③④

つかむ  
3 時間

### ②③私たちの校区にも危険な事故が起きそうな場所はあるのだろうか。

- ・大通りの交差点はいつも交通量が多くて事故が起きそうだね。 ・危険なのは自動車だけかな。
- ・狭い道から自動車や自転車が飛び出してくるところもあるよ。 ・歩道がなくて自動車とぶつかりそうな道もあるぞ。

### ④私たちの身の回りで交通事故は起きているのだろうか。

- ・平成29年の交通事故マップを見ると、事故の件数は中京区だけでもとても多いよ。 ・昔よりも事故の件数自体は減っているんだ。
- ・交通量の多い所で事故がたくさん起きているけれど、狭い道路でも起きているね。 ・年間7000件を超える事故があるんだ。

### 私たちの生活はどのように交通事故から守られているのだろう。

警察署ではどのような取組をしているのだろう。→⑤⑥

地域ではどのような取組をしているのだろう。→⑧⑨

調べる  
5 時間

#### ⑤⑥警察署ではどのようなことをして事故からわたしたちの生活を守っているのだろう。

- ・交通安全パトロールを行っているね。
- ・交番前で警戒をしているよ。
- ・横断歩道の前に立って、歩行者や自動車の誘導もしているんだ。
- ・交通安全教室も開いている。自転車の乗り方など、実際にどうしたらいいのか教えているね。
- ・交通の決まりを守る大切さを教わったよ。
- ・実際に事故が起きたがら連絡を受けてすぐ出勤できるようにしているんだ。
- ・通信指令センターから連絡が来るとすぐ駆けつけるんだ。他の機関とも連携しているんだね。
- ・24時間勤務で交代しているのは交通事故のためだけではないんだよ。→⑦

#### ⑦事件を防ぐために警察署ではどのような取組をしているのだろう。

- ・交通事故だけでなく、犯罪などが起きないようにもしているよ。
- ・交通事故のためだけではなく、犯罪を防ぐためにもパトロールしているんだね。
- ・詐欺などの被害に合わないようするために呼掛けなどもしているね。
- ・様々な防犯を防ぐためにも警察署の人は24時間交代で勤務しているんだね。
- ・通信指令センターからの連絡にすぐ対応することで、事故や事件を減らしたり被害を小さくしたりしているんだ。
- ・消防署と似ているね。地域の人は何かしているのかな。→⑧⑨

#### ⑧⑨地域の人々は事故や事件が起きないようにするために、どのような取組をしているのだろう。

- ・登下校するとき、地域の見守り隊の人が道路に立って安全を確認してくれるよ。
- ・夜には防犯パトロールも行っているよだね。
- ・警察と地域が協力し合ってるんだ。
- ・消防団の人と同じで防火防止パトロールも行っているようだ。
- ・「こども110番の家」という札が貼ってあるおうちもたくさんあるよ。何かあった時すぐに駆け込むことができるね。
- ・〇〇通りに監視カメラがついたね。
- ・街灯も新しく着いたところがあるよ。京都市と協力して行っているんだ。
- ・交通安全教室では、交通ルールなどの決まりを守ることを教えているね。

### ⑩なぜ私たちのくらしが事故や事件から守られているかまとめよう。

警察署や地域の方々が普段から交通事故の防止や防犯のために活動してくれているから、私たちの生活の安全が守られている。また、事故や事件が起きても、通信指令センターから連絡を受けてすぐに駆けつけるようにしたり、消防署などのいろいろな機関と連携したりすることで、被害を小さくすることで、安全を守っている。

### ⑪自転車による交通事故を防ぐため、自転車免許制を取入れるのは賛成か反対か考えよう。

<賛成>

- ・たくさんの取組をしても事故が減らないのだから、やはりちゃんとルールを守るように免許制にすべきだ。
- ・10代の自転車事故が多いのだから、小学校のうちからしっかり学んでおけば、事故は減らせるはずだ。

<反対>

- ・免許を取らないといけなくなると、本当に必要なときに乗れない人が出てくる。
- ・ルールを守っている人はしっかり守っているのだから、わざわざ受ける必要はないのに受けるのは納得いかない。

今でも事故が7000件以上起きていることを考えると、そのような事故の件数を減らすためには私たち自身ももっと考えないといけない。確かにルールをしっかり守ればいいのだが守れていない人もたくさんいる。自転車事故は私たちでも起こす可能性があるのだから、みんなが免許を持つようにすれば、正しい自転車の乗り方も学べるし事故も減らせるので、自転車免許制を取入れるのは賛成だ。

まとめる・生かす  
2 時間

## 見方・考え方



ゾーン 30 整備前後の様子  
(警察庁 HP より)

・事故を防ぐためにゾーン 30 が各地に整備され、京都市内にも年々広がっていることを捉える。

→様々な標識や標示が地域のいたるところにあったり、ゾーン 30 などの場所が整備されたりすることで、交通事故が起きないようにしていることを関連付けて考えられるようにする。

であう 1時間



中京区 事故マップ  
(京都府警 HP より)

- ・京都府内における交通事故発生件数は、年間 15000 件を上回る数であったが、平成 20 年以降、年々減少してきており、平成 29 年では半分以上の 7000 件ほどになったことを捉える。
- ・平成 29 年の中京区における事故発生場所の地図を提示し、作成した校区安全マップと比較し、どのような所で実際に交通事故が多く起きているのかを捉える。

→年々交通事故発生件数が減少しているがまだ 7000 件以上あることと、自分たちの地域にも交通事故が起きそうな場所や実際に起きている場所があることから、身の回りで事故が起きる可能性が高いことを考えられるようにする。

つかむ 3時間

## 事故から守る

## 事故を守るための警察署と関連機関の連携

## 事件から守る

事件を守るための警察署  
と関連機関の連携

- ・警察署では地域のパトロールや交通誘導などを通じ、交通事故が起きないようにしている。また、交通事故が起きた際には、通信指令センターからすぐに連絡が入り、現場に急行できるようにしていることや、通信指令センターから警察署だけではなく、消防署など様々な機関に連絡が届く仕組みを捉える。
- ・事故が起きないように地域の方と連携していることを捉える。

→様々な機関と連携することで、事故を防いだり、被害を小さくしたりしていることを考えられるようにする。

- ・事件が起きないようにするためにパトロールや聞き込みなどを行っていること、24 時間の勤務体制をとることいつでも対応できるようにしている等の工夫に着目する。

→事故や事件からくらしの安全を守るために警察署が中心となり、地域と連携していることを考えることができるようにする。

調べる 5時間

```

graph TD
    Police((警察)) === Community((地域))
    Police === Self((自分))
    Community === Self
    Self --> Police_Community_Connection
  
```

## 自転車免許制の導入

**贊成**

**反对**

- ・警察のしくみや交通事故に関するきまり、緊急時への備えや対応などに着目し、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、地域の事故や事件などから生活の安全を守るための働きを考える。

・警察や地域、きまり・法などにより地域の安全が守られていることを受け、自分たちが事故を減らすためにできることに着目し、現在問題になっている自転車事故を減らすために議論が起きている自転車免許制を導入すべきか否かについて賛成か反対か、学習してきたことを総合して考える。

まとめる・生かす2時間

## 6 本時の目標 (1/11 時間目)

- ・京都市内にある標識や標示等の交通事故を防ぐための様々な設備は何のためにあるのかを考えることを通じ、自分たちの身の回りに交通事故の危険があるかどうか関心をもつことができるようにする。

## 7 本時の展開

学習活動 見方・考え方	○主な発問 ◇問題意識をつなげる発問 ・予想される児童の反応	●支援◆留意点 【評価の視点】
1 資料を基に本時のめあてをたてる。	○この写真を覚えていますか。 ・以前学習した時に出了た交通事故の写真だ。 ・四条通で起きた事故の様子だったね。 ・私たちの生活しているすぐ近くで交通事故が起きているね。 ○交通事故を防ぐために道路には様々な工夫があります。どんな工夫があるか調べてみましょう。	◆パワーポイントで資料を提示する。
2 生活経験を基に予想を立てる。	・道路標識やガードレールなどが様々なところにあるよ。 ・道路標識にはいろいろな種類があるね。 ・標識だけでなく、道路に直接かかっているものもあるよ。	●パワーポイントで様々な標識や標示を提示し、その意味を抑えることで、標識や標示が自動車だけではなく歩行者や自転車にとって意味があるものもあることを捉えられるようにする。
3 様々な標識や標示がどのような意味を持っているのか調べる。 ＜分類＞	○ほかにどんな標識があるか、見てみましょう。 ・今まで見たこともない標識もあるよ。 ・自動車に関わるものが多いけれど、歩行者や自転車に関わるものも多いね。 ・標識だけでなく道路にかかっているものもあるね。標示というんだ。 ・標示にもいろいろあるんだね。 ○道路にある標識や標示は何のためにあるの？ ・事故が起きないようにするためだ。 ・みんなでルールを守らないと危険だから。	
4 ゾーン30が何のためにあるのか、資料を比較しながら設置された意味を考える。 工夫・対策・事業変化 ＜比較＞	○最近このような標示も出てきました。何のための表示か調べてみましょう。 ・ゾーン30 ってなんだろう。初めて聞いたよ。 ・ゾーン30になる前となった後ではだいぶ道路の様子が違うね。 ○ゾーン30を設定したことでどんなよさがあるのか、写真を見比べて見つけた違いを基に考えましょう。 ・歩道が広がったのかな。車道は狭くなったようだよ。	◆ゾーン30についての資料を配布する。 ◆ゾーン30が設置されてから数年しかたっていないことを伝える。 ●ゾーン30の設置件数の増加グラフを提示することで、年々増加していることや、京都市内にも増えていることに気付けるようにす

<p>5 本時の問いに対するまとめを行い、次回の学習の見通しをもたせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路にボールが立っているね。車が来るとき、スピードを落とすんじゃないかな。</li> <li>・道路にも大きく描かれているよ。ゾーン 30 っていうのがわかりやすく示されているね。</li> <li>・歩く人にとってやさしい道路になった感じがするぞ。</li> <li>・道路の幅が狭い生活道路の時速を 30km 以下にして事故を減らそうというきまりなんだ。</li> <li>・京都市にもそのような場所があるのかな。</li> <li>・中京区にもゾーン 30 が設定されたようだ。</li> </ul> <p>○このような標識や標示、きまりがなかったらどうなると考えられるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの生活は交通事故だらけになるんじゃないかな。</li> <li>・いろいろな所で事故が起きて安全が守られないね。</li> <li>・歩行者にとっても運転している人にとっても安全な道路になっていくよ。</li> <li>・みんなが道路の決まりを守って交通事故が起きないようにするためにあるよ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>道路標識や標示でルールを示すことで、危険な場所を示したり、道路のルールを示したりして、歩行者も自動車を運転している人も交通事故が起きないようにしている。</p> </div>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ゾーン 30 になった場所の写真を見比べることで、どのようなよさがあるのかを気付けるようにする。</li> <li>◆調べてわかったことをグループで交流し、なぜ設置しているのか、その意義を考えるように指示をする。</li> </ul> <p>●標識や標示等があることでどのような利点があるのか、それぞれが設置されている意味を集約する。</p> <p>◆調べて分かったことを基に本時の問いに対する答えをまとめる。</p>
<p>6 本時の振り返りを行う。</p>	<p>○本時の振り返り『今日の学習で一番印象に残ったこと』を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの地域に危険な所はどれくらいあるのかなと思った。</li> <li>・本当に交通事故が起きているのかなと思った。</li> </ul>	<p>◆本時の振り返りでは、今日の学習で一番印象に残ったことを書くように声をかける。</p>
<p>7 次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>◇私たちの地域にはゾーン 30 はないね。交通事故が起きない安全な地域なのかな。それとも交通事故の危険がある地域なのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゾーン 30 はないけれど危険な場所はあると思うよ。</li> <li>・今まで事故にあったことがないから、どちらかといえば安全な地域なのではないかな。</li> </ul> <p>◇自分たちの地域が安全かどうか、危険な場所はないのか、実際に調べてみましょう。</p>	<p>●自分たちの校区にはゾーン 30 がないことなどを踏まえ、安全かどうかを投げかけることで、次時につなげられるようにする。</p> <p>【関心・意欲・態度①】 交通事故を身近なものとしてとらえ、それを防ぐ設備に関心をもっている。 (発言・ノートの記事)</p>

## 8 板書計画

交通事故を防ぐために道路にはどのような工夫があるのだろう。

**標識**

標識や標示の資料

**標示**

ゾーン 30 の標示

設置前	設置後	設置後（別の場所）		
ゾーン 30 設置前の 写真	ゾーン 30 設置後の 写真	ゾーン 30 設置後の 写真	ゾーン 30 設置後の 写真	ゾーン 30 設置後の 写真

- ・道路標識やガードレールなどが様々なところにあるよ。
- ・道路標識にはいろいろな種類があるね。
- ・標識だけでなく、道路に直接かかっているものもあるよ。

- ・歩道が広くなった。車道は狭くなったようだ。
- ・道路にポールが立っている。車が来るとき、スピードを落とすんじゃないか。
- ・道路にも大きく描かれている。ゾーン 30 っていうのがはっきり示されている。
- ・歩く人にとってやさしい道路になった感じがする。
- ・道路の幅が狭い生活道路の時速を 30km 以下にして事故を減らそうというきまりだ。
- ・京都市にもそのような場所があるのかな。
- ・中京区にもゾーン 30 が設定された。

- ・私たちの生活は交通事故だらけになる。
- ・いろいろな所で事故が起きて安全が守られない。
- ・歩行者にとっても運転している人にとっても安全な道路になっていく。
- ・みんなが道路の決まりを守って交通事故が起きないようにするためにある。

道路標識や標示でルールを示すことで、危険な場所を示したり、道路のルールを示したりして、歩行者も自動車を運転している人も交通事故が起きないようにしている。

## 6 本時の目標 (2・3/11 時間目)

- ・自分たちの地域は安全といえるのか、校区をフィールドワークしながら安全ではないと考えられる場所の写真を撮ったり全体で確認したりして校区の様子を調べることができるようにする。

## 7 本時の展開

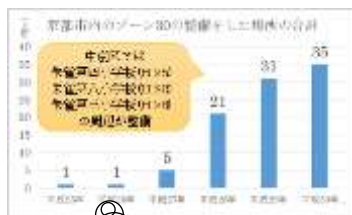
学習活動 <b>見方</b> ・<考え方>	○主な発問 ◇問題意識をつなげる発問 ・予想される児童の反応	●支援◆留意点 【評価の視点】
1 前時の振り返りを行い、本時の問いを立てる。 <b>変化</b> <比較>	<p>○交通事故が起きないようにするために、私たちの周りには様々な標識や標示がありました。ゾーン 30 というきまりがつくられた場所もありました</p> <p>○京都市内ではゾーン 30 の整備は進んでいましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 25 年から少しずつ増えてきている。</li> <li>・平成 30 年 4 月 1 日現在では、市内にも 35 ヶ所整備されているよ。</li> <li>・京都市内にも朱雀第四小学校や第八小学校などで整備された地域があります。</li> </ul> <p>○京都市内でもゾーン 30 が整備された校区もあるのですね。みなさんの校区ではまだ整備がされていないようです。交通事故が起きそうな場所はないのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登校してくるときに自動車が勢いよく通り過ぎていく場所があるよ。</li> <li>・歩道がなくて車が来た時にすれすれになるところも危険じゃないかな。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">自分たちの校区のどこに交通事故が起きる危険があるのだろう。</div>	<p>◆前時の学習で使用した資料を用いてゾーン 30 について確認する。</p> <p>◆中京区のゾーン 30 の話を踏まえ、自分たちの校区に目を向けられるようにする。</p>
2 生活経験を基に予想を立てる。 <推論>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車の交通量が多い千本通に危険が多くあるんじゃないかな。</li> <li>・道幅の狭い地域、ちょっと中に入ったあたりの方にも危険があると思うよ。</li> <li>・危険なのは自動車だけではないと思うよ。自動車は通っていないでもすごい勢いの自転車がよく通るよ。</li> </ul>	<p>●校区地図を提示することで、どのあたりに危険があるのか、生活経験を基に予想を立てることができるようにする。</p>
3 フィールドワークを通じ、校区で交通事故が起きる危険がありそうな場所を調べる。 <b>広がり</b> ・ <b>分布</b>	<p>○実際に校区のどのような所が危険か、グループごとに調べましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通量が多くて、歩道が赤になったらどんどん車が曲がってくるよ。</li> <li>・あまり自動車が走っていないからそんなに危険だと思わないけれど、自動車が来たらわきによけるスペースがないね。</li> <li>・自転車が勢いよく走っていくよ。狭い歩道から自転車が歩道を走ったら危ないね。</li> </ul>	<p>◆予想を基にグループごとに調べる区域を分担する。</p>

<p>4 調べてわかったことを全体でまとめ、整理する。</p> <p><b>広がり・分布</b> ＜総合＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やはり〇〇通は自転車の交通量がとても多いね。自動車は走っていなくても危険だ。</li> <li>・曲がり角で先がよく見えないよ。飛び出しがあると自動車からも見えないから危険だ。</li> <li>・駐車場から車が出ようとするときに歩行者とぶつかりそうになるね。</li> </ul> <p>○それぞれが調べてきた場所のどのような所に危険がありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車の交通量が多いだけではなく、歩道も狭いので危険だと考えました。</li> <li>・道路の幅が狭いけれど、自動車が頻繁に通っているので歩行者にとって危険です。</li> </ul> <p>○調べたことをまとめると校区のどのような所に交通事故の危険があるといえますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通量の多い通りにはやはり危険だと感じる場所がたくさんあります。</li> <li>・大通りだけではなく、中に入った狭い通りなどにも危険があります。</li> <li>・地域のいろんなところに危険があるので、どこでも交通事故が起きる可能性があるといえます。</li> </ul> <p>○誰にとって危険だといえるのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大通りの事故は自動車同士の事故が考えられるね。</li> <li>・自動車だけではなく、歩行者も事故に合うよ。</li> <li>・自動車や歩行者だけではなく、自転車による事故も考えられるね。</li> <li>・道路を使っている人は誰でも交通事故にあう危険性があるということか。</li> </ul>	<p>◆どのような視点から危険だと考えたのか、理由を提示しながら説明するように声かけをする。</p> <p>◆全体を俯瞰して特徴を捉えることができるように問いかけする。</p> <p>【技能②】</p> <p>校内の防災設備を調べ、どこにどのような設備があるか記録している。</p> <p>(ノートの記述)</p> <p>●危険がだれにとっての危険なのかを整理することで、自分たちにとっても危険があることを意識できるようにする。</p>
<p>5 本時の問いに対するまとめを行い、本時の振り返りを行う。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>私たちの校区には大通りや狭い通りなど、自動車や自転車、歩行者が交通事故を起こしそうな危険な場所が何か所もある。</p> </div> <p>○本時の振り返り『今日の学習で一番印象に残ったこと』を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの地域も改めてみるとたくさんの危険があることがわかった。安全に気をつけなければ交通事故が起きてしまうと思った。</li> </ul>	<p>◆一番印象に残った視点から振り返りをするよう声かけをする。</p>
<p>6 次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>◇調べてみて危険な場所がたくさんあることがわかってきました。実際に校区や京都市では交通事故が起きているのかな。</p>	



## 8 板書計画

自分たちの校区のどこに交通事故が起きる危険があるのだろう。



- ・自動車の交通量が多い千本通
- ・道幅の狭い地域、ちょっと中に入ったあたり
- ・三条通。自動車は通っていないけどすごい勢いの自転車がよく通る。

曲がり角で先がよく見えない

駐車場から車が出ようとするときに歩行者とぶつかりそうになる

校区地図

交通量が多くて、歩道が赤になったらどんどん車が曲がってくる。

自動車が来たらわきによけるスペースがない

歩道が狭いから自転車が歩道を走ったら危ない。

自転車の交通量がとても多い

- ・交通量の多い通りには危険だと感じる場所がたくさんある。
- ・地域のいろんなところに危険があるので、校区のどこでも交通事故が起きる可能性がある。
- ・道路を使っている人は誰でも交通事故にあう危険性がある。

私たちの校区には大通りや狭い通りなど、自動車や自転車、歩行者が交通事故を起こしそうな危険な場所が何か所もある。

## 6 本時の目標 (4/11 時間目)

- ・京都市の事故の実態を捉え、交通事故を防ぎ、安全がどのように守られているのか、学習問題を考え、学習計画を立てることができるようにする。

## 7 本時の展開

<p>学習活動</p> <p><b>見方</b>・&lt;考え方&gt;</p>	<p>○主な発問 ◇問題意識をつなげる発問</p> <p>・予想される児童の反応</p>	<p>●支援◆留意点</p> <p>【評価の視点】</p>
<p>1 前時の振り返りを行い、本時の問いを立てる。</p> <p><b>変化</b></p> <p>&lt;比較&gt;</p>	<p>○みなさんの校区ではいろいろな場所で交通事故が起きそうだ、と考えられましたね。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車や自転車、歩行者のだれもが事故に合いそうだった。</li> <li>・大通りだけでなく、狭い道路も事故にあう可能性があったよ。</li> <li>・校区のどこでも事故に合う危険性があった。</li> </ul> <p>○事故が起きないようにするために標識や標示などがあることを学習してきました。実際に校区にもたくさんの表示や標識がありました。本当に事故は起きているのでしょうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>私たちの身の回りで交通事故が起きる危険は本当にあるのだろうか。</p> </div>	<p>◆前時の学習で作成した校区マップを振り返るようにする。</p> <p>●子どもたちが危険と判断したが、標識や標示がいたる場所にあり、事故が起きないようにしている工夫を示すことで、思考を揺さぶるようにする。</p>
<p>2 生活経験を基に予想を立てる。</p> <p>&lt;推論&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に校区を見て回ったときに危ないと思ったよ。知らないだけで事故は起きているんじゃないかな。</li> <li>・標識や標示があるから危なくても事故はほとんど起きていないんじゃないかな。あっても少ないと思うよ。</li> <li>・自分で実際に見たことがあるから、やっぱりあると思う。</li> </ul>	<p>◆実際に起きている、少ないと考えているそれぞれの子どもに、年間中京区で何件くらい起きていると考えているのかを尋ねる。</p>
<p>3 予想した内容について資料を基に調べる。</p> <p><b>広がり</b>・<b>分布</b></p>	<p>○本当に事故は起きているのかどうか、起きているとしたらその事故はどんな様子なのか資料を基に調べましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中京区のいろいろな所で事故がたくさん起きているよ。</li> <li>・校区でも実際に事故は起きているんだ。</li> <li>・校区を調べて危険だと思ったところでやはり事故が起きているよ。</li> <li>・昼に起きている事故の方が多いようだ。</li> <li>・大きな通りや駅の近くで特に多くの事故が起きているね。</li> <li>・4000 件以上の交通事故はやはり多いと考えられるのではないかな。</li> <li>・中京区だけでも年間 300 件以上事故が起きている。</li> </ul>	<p>◆中京区、京都市の交通事故の件数、事故マップの資料を提示する。</p> <p>●校区地図と比較することで、自分の地域で事故が起きているか確認できるようにする。</p>

<p>4 事故件数の変化から，学習問題を設定する。</p> <p><b>変化</b></p> <p>＜比較＞</p>	<p>○確かに事故は起きているようです。標識や標示，ゾーン 30 などの新しいきまりなどもあるのに事故はまだ多いようです。では，10 年前の事故件数を見てみましょう。10 年前はどうだと思いませんか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと多かったんじゃないかな。</li> <li>・今より人口が少ないから事故は少ないはずだ。</li> <li>・10 年前には約 10000 件だったのに，今は半分程度に減っているね。</li> <li>・半分に減っているけれど，それでもまだ 4000 件以上の交通事故があるよ。</li> <li>・でもこの 10 年でものすごく減ってきているね。半分以下になっているのはすごい。</li> <li>・なぜこんなに事故を減らすことができたのかな。誰かが事故を減らす努力をしたのかな。</li> </ul> <p>○まだまだ事故は多いけれど，どんどん減ってきているので，安全に近づいてきているようですね。どうやって守られているのでしょうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>私たちの生活は交通事故からどのように守られているのだろう。</p> </div> <p>○火事からわたしたちの生活は消防署や地域の人によって守られていました。交通事故から守ってくれる人はいるのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・警察署の人が守ってくれているはずだ。</li> <li>・事故があったときにはすぐに警察署の人が駆けつけてくれるよ。</li> <li>・地域の人が朝の登下校見守ってくれている。消防署と同じように地域の方も守ってくれているはずだね。</li> </ul> <p>○これからの学習でその 2 つの視点からどのように守られているか調べていきましょう。</p>	<p>●10 年間の事故件数の変化の資料を提示し，事故件数が大きく減ってきていることを捉えることができるようにする。</p> <p>●減るためにどのような立場の人がどのようなことを行ってきたのかを考えることで，学習問題を設定できるようにする。</p>
<p>5 本時の問いに対するまとめを行い，本時の振り返りを行う。</p>	<p>○今日の学習をまとめ，本時の振り返り『今日の学習で疑問に思ったこと，これから考えていきたいこと』を書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>私たちの地域や京都市では実際に事故が様々な所で起きていた。京都市では年間 4000 件以上も起きているが，10 年前と比べると半分以上に減ってきている。減るための努力があったのではないかな。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・想像以上に多くの事故が起きていたが，数はとても減っていた。なぜなのか考えてみようと思う。</li> </ul>	<p>◆消防署の学習を想起し，予想を立て，学習計画を立てるようにする。</p>
<p>6 次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>◇学習計画にあるように，次回は警察署について調べていきましょう。</p>	<p>◆疑問点や今後考えていきたいことを振り返るよう声かけをする。</p> <p>【思考・判断・表現①】 学習問題を立て，事故を防ぐための取組について調べる計画を立てている。 (発言・ノートの記述)</p>

## 8 板書計画

私たちの身の回りで交通事故が起きる危険は本当にあるのだろうか。

### 校区安全マップ

- ・知らないだけで事故は起きている。
- ・標識や標示があるから危なくとも事故はほとんど起きていない。あつても少ない。
- ・自分で実際に見たことがあるから、やっぱりあると思う。

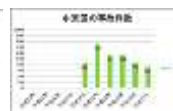
- ・中京区のいろいろな所で事故がたくさん起きている。
- ・自分たちの校区でも実際に事故は起きている。
- ・大きな通りや駅の近くで特に多くの事故が起きている。



H29 京都市 4286 件  
中京区 367 件

- ・校区を調べて危険だと思ったところでやはり事故が起きている。

- ・4000 件以上の交通事故はやはり多い。
- ・中京区の事故も 300 件以上あり多い。



- ・10 年前には約 10000 件だったのに、今は半分程度に減っている。
- ・半分に減っているけれど、それでもまだ 4000 件以上の交通事故がある。
- ・でもこの 10 年でものすごく減ってきているね。半分以下になっているのはすごい。
- ・なぜこんなに事故を減らすことができたのかな。誰かが事故を減らす努力をしたのかな。

私たちの生活は交通事故からどのように守られているのだろう。

警察署ではどのような取組をしているのだろう。

地域ではどのような取組をしているのだろう。

私たちの地域や京都市では実際に事故が様々な所で起きていた。京都市では年間 4000 件以上も起きているが、10 年前と比べると半分以上に減ってきている。減るための努力があったのではないかな。

## 6 本時の目標 (5・6/11 時間目)

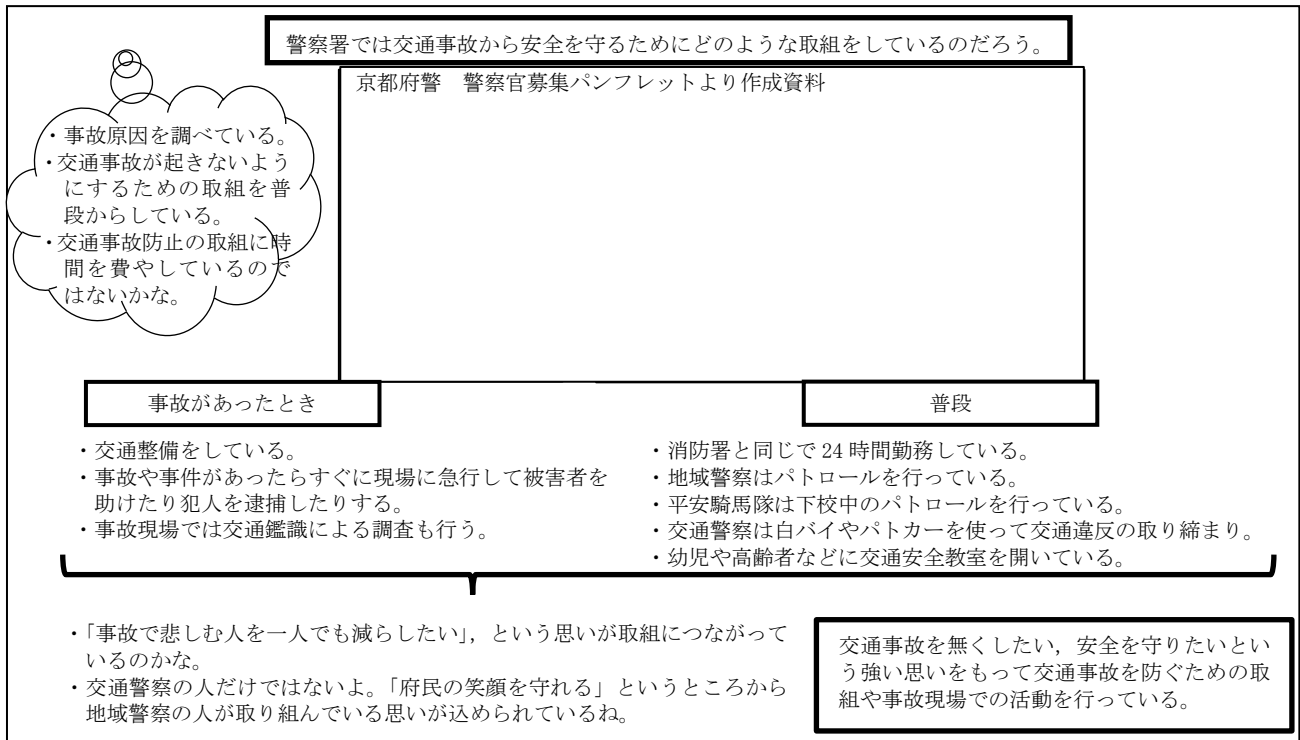
- ・交通事故から安全を守るため警察署がどのような取組を行っているのかを調べ、交通事故を予防するための取組をしたり、事故が起きたときに素早く対応できるような体制をとったりしていることを理解できるようにする。

## 7 本時の展開

学習活動 見方・＜考え方＞	○主な発問 ◇問題意識をつなげる発問 ・予想される児童の反応	●支援◆留意点 【評価の視点】
1 前時の振り返りを行い、本時の問いを立てる。 類推 ＜比較＞	<p>○以前みんなに提示した事故現場の様子を撮った写真です。みなさんが予想したように警察官が確かに来ています。何をしているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通整理をしているようだ。これ以上事故が起きないようにするためだね。</li> <li>・関係ない人が来ないように立ち入りを制限しているように見えるな。</li> <li>・事故にあった人から話を聞いているのかな。</li> </ul> <p>○事故が起きた時に 110 番通報をすると、通信指令センターに連絡が行き、5～6 分でパトカーが到着するそうです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消防署の働きに似ているね。</li> <li>・警察だけでなく、消防署にも連絡が行くんだ。</li> </ul> <p>○消防署の働きを調べている時も、警察の人が来て交通整理などをしていましたね。交通事故があっても同じことをするようです。</p> <p>○交通事故があったときはこのように事故のあった現場で活動をしているようですが、事故があったときだけこうして活動をしているのかな。それとも他にもしていることはあるのかな。事故現場でしていることも交通整理だけかな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>警察署では交通事故から安全を守るためにどのような取組をしているのだろう。</p> </div>	<p>◆1Hにも使用した四条通りでの交通事故のスライドを提示し、京都市であった交通事故の様子を想起できるようにする。</p> <p>●警察署の人の様子に着目したり、消防署の働きの学習を想起したりすることで、警察署の動きを理解できるようにする。</p> <p>●スライドを提示し、通信指令センターの果たす役割を消防署の働きを想起することで理解できるようにする。</p> <p>●事故が起きた時と起きていない時、事故現場で交通整理とそれ以外、といった視点から子どもに問いかけることで、予想を立てられるようにする。</p>
2 生活経験を基に予想を立てる。 ＜推論＞＜類推＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故現場では交通整理以外にも聞き取りもしているから事故原因を調べているのではないかな。</li> <li>・消防署の人も火事が起きないときもパトロールをしたりしていたよ。交通事故が起きないようにするための取組を普段からしているのではないかな。</li> <li>・交通事故防止の取組に時間を費やしているのではないかな。</li> </ul>	<p>◆提示した資料を用いて予想したり消防署の学習を想起したりして、どのようなことをしているのか考えるよう問いかける。</p>
3 予想した内容について資料を	<p>○京都府警が出しているパンフレットです。この資料を用いてどのような取組をしているの</p>	<p>◆警察組織が様々な部門から成り立っており、その中の</p>

<p>基に調べる。</p> <p><b>仕組み</b></p>	<p>か、予想を基に調べましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消防署と同じで24時間勤務しているよ。</li> <li>・地域警察はパトロールを行っているようだ。</li> <li>・事故や事件があったら現場に急行して被害者を助けたり犯人を逮捕したりしているんだ。</li> <li>・平安騎馬隊は下校中のパトロールを行っているよ。そういえば見たことあるな。</li> <li>・交通警察は白バイやパトカーを使って交通違反の取り締まりをしているね。ルールを守るようにして安全を守ろうとしているんだ。</li> <li>・幼児や高齢者などに交通安全教室を開いているんだ。</li> <li>・事故現場では交通鑑識による調査も行うみたいだね。</li> <li>・渋滞情報を提供したり信号制御したりすることで事故を減らそうとしているんだ。</li> <li>・事故が起きた時だけでなく、起きていないときも様々な取組を行っているんだね。</li> </ul>	<p>交番、地域警察、交通警察について調べることを伝える。</p> <p>◆資料に鉛筆で線を引いたり書き込んだりして調べるように声かけをする。</p> <p>【技能①】</p> <p>事故が起きた時の警察署や関係機関の取組について資料を用いたり見学したりして調べている。</p> <p>(発言・ノートの記述)</p>
<p>4 なぜ様々な取組を行うのか、その理由を考える。</p> <p><b>思い</b></p> <p>&lt;比較&gt;&lt;関連&gt;&lt;類推&gt;</p>	<p>○交通事故が起きた時だけではなく、普段から事故防止の取組をしているようです。様々な部署でたくさんの仕事をしていますが、なぜ警察署の人はこんなにもたくさんの取組をするのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通警察の巡査は自分も交通事故にあったから事故防止を目指したいという思いでやっているようだ。</li> <li>・「事故で悲しむ人を一人でも減らしたい」という思いが取組につながっているのかな。</li> <li>・交通警察の人だけではないよ。「府民の笑顔を守れる」というところから地域警察の人が取り組んでいる思いが込められているね。</li> </ul> <p>交通事故を無くしたい、安全を守りたいという強い思いをもって交通事故を防ぐための取組や事故現場での活動を行っている。</p>	<p>◆なぜしているのか、警察官の思いについて考えるよう、視点を明確にして発問する。</p> <p>◆さらに調べる時には、資料に赤で線を引いたり書き込んだりするように声かけをする。</p> <p>●色を変えて調べることで、振り返ったときに、自分の調べる視点がどのように変化したのかを振り返ることができるようにする。</p> <p>【知識・理解①】</p> <p>事故が起きた時の警察署や関係機関との連携等を理解している。</p> <p>(発言・ノートの記述)</p>
<p>5 本時の問いに対するまとめを行い、本時の振り返りを行う。</p>	<p>○今日の振り返りは、『最初と後の調べ学習を振り返って感じたこと、さらに調べてみたいこと』を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に調べていた時は何をしているのかしか調べなかったけど、同じ資料でも違うことが調べられて考えが深まった。</li> <li>・警察署はほかの仕事もしているようだ。どんなことをしているのだろう。</li> </ul>	<p>◆自分の調べ学習を振り返り、どのような視点で調べていたのか、視点の変化に着目できるよう声かけをする。</p> <p>●次時につながる疑問をもつ子どもに振り返りを発表させることで、問題意識を連続させることができるようにする。</p>
<p>6 次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>◇警察署では他にどのような仕事をしているのでしょうか。</p>	

## 8 板書計画



## 6 本時の目標 (8・9/11 時間目)

- ・警察署だけではなく、地域の方々が事故や事件から守るために活動を行っていることを調べ、その理由を説明することができるようにする。

## 7 本時の展開

学習活動 見方・＜考え方＞	○主な発問 ◇問題意識をつなげる発問 ・予想される児童の反応	●支援◆留意点 【評価の視点】
1 前時の振り返りを行い、本時の問いを立てる。 類推 ＜比較＞	○前回警察署に行ったときに警察署だけではなく地域でも事故や事件から安全を守るために取り組んでいることがあることを聞きました。地域の人々はどんなことをしているのでしょうか。 <div>地域の人々は事故や事件から安全を守るために、どのようなことをしているのだろう。</div>	◆警察署の話をもとに地域の取組に目を向けるようにする。
2 生活経験を基に予想を立てる。 ＜推論＞＜類推＞	・登下校するときに見守ってくれている地域の方がいるよ。 ・たくさんの人が見守っていてくれるね。 ・登下校の時以外にもしてくれていることってあるのかな。	◆どのような場面で見たことがあるかを想起して発言するよう問いかける。
3 予想した内容について資料を基に調べる。 仕組み	○地域の人々が行っていることは誰のために行っているといえるのか資料を基に調べてみましょう。 ・子ども 110 番の家がある。校区でも見たことがあるよ。 ・110 番の家は不審者が出たりしたときにすぐに逃げることができるようになっているね。これがあることで私たちが何かあったときに助けてもらえるな。 ・6 月に自転車安全教室を行ったね。自転車安全教室を行ったのも地域の人たちなんだ。 ・小学生が起こす自転車事故を減らすことができるよね。 ・登校の時に見守ってくれている地域の人也是我们の安全を守っているといえるね。	●「何を」「誰のため」という視点から考えることができるように問いを発することで、何のために取り組んでいるのか、その意味についても整理して目を向けることができるようにする。 ◆どんな立場の人が行っているのかを考えるように問いかける。 【技能①】 地域の見守り隊等の取組について資料や地域の方のお話を基に調べている。 (発言・ノートの記録)
4 なぜ様々な取組を行うのか、その理由を考える。 思い ＜関連＞＜総合＞ ＜類推＞＜推論＞	○地域の人たちが行っていることは私たちの安全をまもるために行っているといえるようですね。ではなぜこのような取組を行っているのでしょうか。事故や事件から安全を守るために警察があるのではないですか。 ・警察署の人たちが事故や事件から安全を守るためいろいろな事に取り組んでいるけれど、それだけでは十分ではないからだ。 ・警察署もたくさんの取組をしているけれど事	◆警察署が様々な取組を行っているにもかかわらずなぜ地域の人が行うのか、その意味を考える問を投げかけるようにする。 ◆グループでその理由を考えるようにする。



	<p>故や事件をもっと防ごうと思ったら地域でも何かしなければと思ったんじゃないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの地域でも事故はたくさん起きていたから、その事故から安全を守るためには警察と協力しないといけないのではないかな。</li> <li>・警察と一緒に安全の取組を広げるためには地域の力が必要だ。自転車安全教室もだから行ったんだ。</li> <li>・消防署の学習で消防団の方の思いと同じように、地域の安全は地域でも守るという思いがあったからではないかな。</li> </ul>	
5 地域の方にお話を伺い、自分たちの考えを検証する。	<p>○様々な考えがあるようですが本当かどうか、地域の方に話を聞いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より安全な街づくりのために活動を行っているんだな。</li> <li>・私たちの安全を守ることを考えて取り組んでくれているんだ。</li> <li>・私たちの知らないところで他にも様々な活動をしてくれているんだな。だから私たちは事故にあうことなく安心して生活できるんだ。</li> </ul>	◆G Tに話を伺うことで考えた事実を検証できるようにする。
6 本時の問いに対するまとめを行い、本時の振り返りを行い、次時の学習の見通しをもつ。	<p>○今日の学習のまとめをします。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地域の方は交通事故や事件から地域の安全を守りたい、地域の子どもの私たちを守りたいという願いを実現するために、毎日のように安全を見守るなど様々な活動を行い、警察と協力することで事故や事件から安全なくらしを守ろうとしている。</p> </div> <p>○今日の学習で一番印象に残ったことは何か、それはどうしてか理由も併せて振り返りを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が思っていたように地域を守りたいという思いから活動をしていることが分かった。それでも毎日することは大変だと思う。それだけ守りたい思いが強いんだなと感じた。</li> </ul> <p>◇事故や事件から安全を守るために警察や地域の人が取り組んでできていることが分かりました。これまでの学習を整理するとどのようにまとめられるかな。</p>	<p>【思考・判断・表現②】</p> <p>警察署と地域が協力することで事故や事件から安全なくらしを守ろうとしていることを説明している。</p> <p>(発言・ノートの記述)</p> <p>◆振り返りの視点を伝えるようにする。</p> <p>●次時の学習活動を意識させることで、単元の学習を連続して考えることができるようにする。</p>

## 8 板書計画

地域の人々は事故や事件から安全を守るために、どのようなことをしているのだろう。

- ・登下校するときに見守ってくれている地域の方がいるよ。
- ・たくさんの人が見守ってくれてくれるね。
- ・登下校の時以外にもしてくれていることってあるのかな。

### 事故

#### 地域の人々の取組資料

- ・6月に自転車安全教室を行った。
- ・自転車安全教室を行ったのも地域の人
- 小学生が起こす自転車事故を減らすことができる。
- ・登校の時に見守ってくれている地域の人
- も私たちの安全を守ってくれている。

### 事件

#### 地域の人々の取組資料

- ・子ども 110 番の家がある。校区でも見たことがある。
- ・110 番の家は不審者が出たりしたときにすぐに逃げることができるようになっている。
- 私たちが何かあったときに助けてもらえる。

- ・警察署の人たちが事故や事件から安全を守るためにいろいろな事に取り組んでいるけれど、それだけでは十分ではないから。
- ・警察署もたくさんの取組をしているが事故や事件をもっと防ごうと思ったら地域でも何かしなければと思った。
- ・私たちの地域でも事故はたくさん起きていたから、その事故から安全を守るためには警察と協力しないといけないと考えた。
- ・警察と一緒に安全の取組を広げるためには地域の力が必要だから。

地域の方は交通事故や事件から地域の安全を守りたい、地域の子どもの私たちを守りたいという願いを実現するために、毎日のように安全を見守るなど様々な活動を行い、警察と協力することで事故や事件から安全な暮らしを守ろうとしている。

## 6 本時の目標 (10/11 時間目)

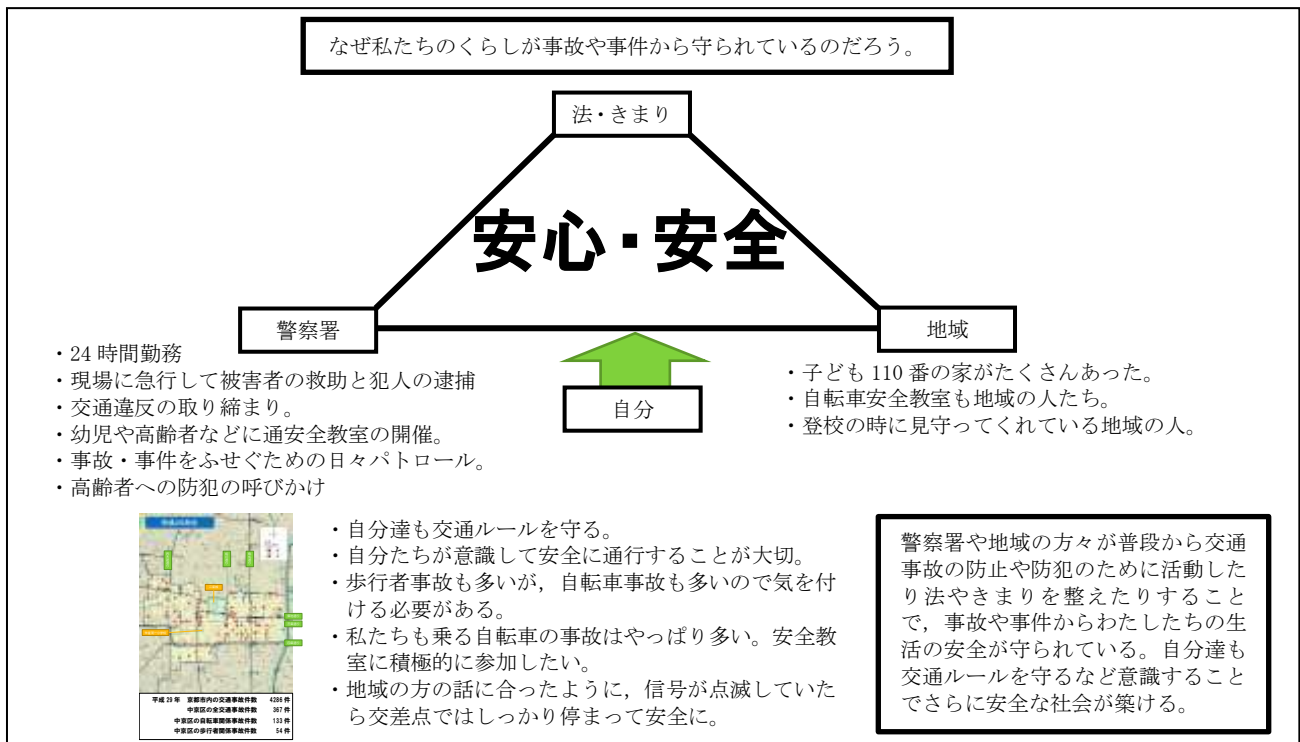
- ・事故や事件から生活の安全を守るために警察署や地域が協力して行っている取組や工夫等について、学習したことをまとめることができるようにする。

## 7 本時の展開

学習活動 <b>見方・&lt;考え方&gt;</b>	○主な発問 ◇問題意識をつなげる発問 ・予想される児童の反応	●支援◆留意点 【評価の視点】
<p>1 これまでの学習を振り返り、本時の問いを確認する。</p> <p>2 それぞれの立場でどのような取組が行われていたのか、それをどのような思いで行っていたのか整理する。</p> <p><b>役割・影響・協力</b>  <b>願い・工夫・努力</b>  <b>つながり・仕組み</b>  <b>対策・事業</b>  <b>&lt;総合&gt;&lt;分類&gt;</b></p>	<p>○これまでに事故や事件から生活の安全を守るためにどのようなことが行われているのか学習をしてきました。今日はこれまでの学習をまとめていきます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>なぜ私たちのくらしが事故や事件から守られているのだろう。</p> </div> <p>○どのような立場での取組がありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・警察の人々の様々な取組があったね。</li> <li>・警察だけではなく地域の人も協力して取り組んでいたよ。</li> </ul> <p>○それぞれの立場の人の取組を事故や事件をふせぐ取組から整理しましょう。どんな取組を何のためにしていましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・警察署の人は消防署と同じで 24 時間勤務していたね。</li> <li>・事故や事件があったらすぐに現場に急行して被害者を助けたり犯人を逮捕したりします。</li> <li>・交通警察は白バイやパトカーを使って交通違反の取り締まりをしているね。ルールを守るようにして安全を守ろうとしているんだ。</li> <li>・幼児や高齢者などに交通安全教室を開きます。</li> <li>・事故が起きた時だけでなく、起きていないときも様々な取組を行っていたな。</li> <li>・事故だけでなく事件をふせぐために日々パトロールを行っていたな。</li> <li>・地域で犯罪が起きないように高齢者の家を訪ねたり防犯の呼びかけをしたりしていたよ。</li> </ul> <p>○地域の人にはどのような取組をしていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども 110 番の家がたくさんあったので、不審者が出たりしたときにすぐに逃げることができるようになっています。</li> <li>・わたしたちも参加した自転車安全教室を行ったのも地域の人たちでした。小学生が起こす自転車事故を防ぐことができます。</li> <li>・登校の時に見守ってくれている地域の人も私たちの安全を守ってくれています。</li> </ul> <p>○どんな思いで取り組んでいましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故防止を目指したい、悲しむ人を一人でも</li> </ul>	<p>◆警察・地域の取組に分けて整理してまとめるようにする。</p> <p>●「何を」「何のため」という視点から取り組みを整理するよう、発問で視点を整理できるようにする。</p>

<p>3 人々の取組だけでなく、法やきまりでも守られていることを確認する。</p> <p>4 自分たちの安全が守られている様子を図示してまとめる。</p> <div data-bbox="165 842 399 1008"> <div>役割・影響・協力</div> <div>願い・工夫・努力</div> <div>つながり・仕組み</div> <div>対策・事業</div> </div> <p>&lt;総合&gt;</p> <p>&lt;再構成&gt;</p> <p>5 自分たちができることを考える。</p> <p>6 本時の問いに対するまとめを行い、本時の振り返りを行い、次時の学習の共通しをもつ。</p>	<p>減らしたい、という思いで取り組んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・府民の笑顔を守る思いで取り組んでいました。</li> <li>・地域の人やわたしたちの安全を守るために毎日立当番をしていました。警察署の人と同じだと思います。</li> </ul> <p>○学習の始めにゾーン 30 などのきまりがあることも学習しました。このようなきまりは何のためにあるのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このきまりも安全を守るためだね。</li> <li>・法律やきまりを作ることさらに安全に生活することができるようになるな。</li> </ul> <p>○警察署、地域、法やきまりの三つがそろうことで事故や事件を防いで安全に暮らすことができるようです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図にまとめると三つが連携しているように示せるね。</li> <li>・事故や事件を防いで安全・安心な街にしたいという思いは共通しているから真ん中に書くこと分かりやすいね。</li> <li>・「火事をふせぐ」の学習と同じような図だ。</li> <li>・火事の時と同じように事故や事件を防ぐため私たちにできることはないかな。</li> </ul> <p>○事故や事件をふせぐために自分達にはどんなことができそうか話し合ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達も交通事故が起きないように交通ルールを守るとは大切だ。</li> <li>・地域の人や警察署の人に守ってもらうだけではなく、自分たちが意識して安全に通行することが大切ではないかな。</li> <li>・私達も乗る自転車の事故はやっぱ多い。安全教室に積極的に参加したいね。</li> </ul> <p>○わたしたちにもできることをすることで、さらに安全な社会になっていきますね。今日の学習のまとめをします。</p> <div data-bbox="416 1736 1034 2011"> <p>警察署や地域の方々が普段から交通事故の防止や防犯のために活動したり法やきまりを整えたりすることで、事故や事件からわたしたちの生活の安全が守られている。自分達も交通ルールを守るなど意識することでさらに安全な社会が築ける。</p> </div> <p>○安全を守るために自分はどうしていきたいと考えるか、振り返りに書きましょう。</p>	<p>◆法やきまりも事故や事件をふせぐための大きな要素であることを確認する。</p> <p>●模式図で示して表すことで、どのように守られているのかを客観的にとらえられるようにする。</p> <p>●消防署の学習との関連や模式図を確認することを通じ、自分たちにもできることはないか、という視点を図に加え、どのようなことができるか考えることができるようにする。</p> <p>●自分たちができることを考える際、子どもたちが生活で利用する自転車の事故件数等の資料を提示・配布することで、自分たちにできることにはどのようなことがあるのか参考にできるようにする。</p> <p>【知識・理解②】</p> <p>警察署や地域、関係機関、法、さらに自分が関わることで安全な暮らしが守られていることを理解している。</p> <p>(発言・ノートの記述)</p>
--	--	--

## 8 板書計画



## 6 本時の目標 (11/11 時間目)

- ・自分たちも使っている自転車による事故を減らすため、自転車免許制度を設定することについてどう考えるか、これまでの学習を踏まえて自分の考えを表現することができるようにする。

## 7 本時の展開

<p>学習活動</p> <p><b>見方</b>・&lt;考え方&gt;</p>	<p>○主な発問 ◇問題意識をつなげる発問</p> <p>・予想される児童の反応</p>	<p>●支援◆留意点</p> <p>【評価の視点】</p>
<p>1 単元のまとめを振り返るとともに、自転車免許制について知る。</p>	<p>○警察、地域、法・きまり、そして自分たち。この4つの視点に関わり合うことで事故や事件からわたしたちの生活の安全・安心が守られていることがわかりました。</p> <p>○法・きまりを守ることによってその事故を減らすことにつながりますが、中京区の事故の3件に1件は自転車に関係していました。警察も自転車事故を減らすために呼びかけています。</p> <p>○自転車が歩行者を死亡させてしまった例もあります。そんな自転車事故を無くすために自転車を免許制にしたらいいいのではないかと、という議論があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車免許制度ってどんな制度かな。</li> <li>・事故が減るならいいのではないかな。</li> </ul> <p>○自転車免許制度になると、自動車の免許と同じように免許がない人は自転車に乗れません。みなさんも免許を取るためには実技講習を受けたり、様々な法・きまりを勉強したり、運転免許試験に合格する必要があります。運転違反をしたら免許が無効になります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自転車事故を減らすために自転車を免許制にするべきだろうか。</p> </div>	<p>●前時の板書を側面に掲示することで振り返れるようにする。</p> <p>◆自転車事故の実態のグラフを提示する。</p> <p>◆警察も自転車事故を減らすためにパンフレットをつくらしたり呼びかけたりしていることを伝える。</p> <p>◆自転車免許制について説明する。</p>
<p>2 自転車免許制のメリット・デメリットを考える。</p> <p><b>影響</b>・<b>工夫</b></p> <p><b>仕組み</b></p> <p><b>対策</b>・<b>事業</b></p> <p>&lt;比較&gt;&lt;関連&gt;</p>	<p>○自転車を免許制にした時にはどんなメリットがあると考えられますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法で決められるからみんな正しい乗り方を知ることができる。</li> <li>・きまりを守らない人は乗れなくなるから事故が減ると考えられるね。</li> </ul> <p>○自転車免許制は4つの関係のうち法が大きくなるということですね。逆にどんなデメリットが考えられますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗りたい人が乗れなくなるね。</li> <li>・わざわざ取りに行くのは大変だな。</li> </ul> <p>○警察がもっと厳しく自転車を取り締まったらいいいのではないかと話もあります。そうすると法ではなく、警察の部分が大きくなっていきますね。</p> <p>○皆さんは賛成でしょうか、反対でしょうか、</p>	<p>●自転車免許制を導入するメリット・デメリットをそれぞれあげることによって、自分の立場を選択できるようにする。</p> <p>◆メリット・デメリットが考えにくい時は教師が例示する。</p> <p>●4者の関係図を利用して示すことで、何を強調して安全を守ろうとしているのかを捉えられるようにする。</p> <p>●黒板に名札を貼ることでそ</p>

<p>3 自分の立場を示し、なぜそう考えるか討論を行う。</p> <p>役割・影響・協力 願い・工夫・努力 つながり・仕組み 対策・事業</p> <p>&lt;総合&gt;&lt;分類&gt; &lt;関連&gt;</p> <p>4 議論を踏まえ、どのようなことが大切なのかを考える。</p> <p>&lt;総合&gt; &lt;再構成&gt;</p> <p>5 本時の問いに対するまとめをするとともに振り返りを行う。</p>	<p>自分の立場を黒板に示しましょう。</p> <p>○なぜ賛成か意見を述べてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車事故がこれだけあるから命を守るために免許制にすることはよいと思います。</li> <li>・ルールを守っていない人がたくさんいるけど、しっかり守ることができるようになります。</li> </ul> <p>○なぜ反対か意見を述べてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・免許制にしても違反する人は違反すると思います。</li> <li>・自動車の免許と同じように法を覚えないと乗れなくなるけど、子どもに法は難しいです。</li> <li>・警察が取り締まりを強化することで防げるのであれば、する必要はないかな。</li> </ul> <p>○それぞれの立場から意見がありましたが、反論はありますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・命を守るためには子どもも法やきまりを守るために覚えるのは大人も子どもも同じだよ。</li> <li>・免許制があることで重大な事故は減るかもしれないけれど本当に必要だという人が使えなくなったら生活が困るよ。そうでなくてもみんなが交通ルールを守ることで自転車事故は減らせるはずだ。</li> <li>・法やきまりをつくって規制することで事故を減らせるかもしれないけれど、生活が大変になるという問題も起きるから警察に規制してもらう方が効果的ではないかな。</li> </ul> <p>○法で規制してもみんなが守らなければ意味がない、でも警察の役割を大きくしても、みんなが守らなければ事故は減らないですね。安全を守るために何が大切なのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの立場が大切なんだ。</li> <li>・自分たちがしっかり法やきまりを守ること、みんなが守ることで安全になるといえる。</li> <li>・一人一人が意識をしっかりとつことは法をつくることよりも大切なのではないかな。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>生活の安全を守っていくためにはただ新しく法をつくったり警察の取り締まりを強化したりするだけでなく、自分たちがしっかりと法・きまりを守ることが大切である。</p> </div> <p>○今日の学習で考えたこと、これから生かしたいことを振り返りに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・警察、地域、法・きまりと一緒に自分たちが適切に法やきまりに関わっていくことが本当の安全をつくっていくことにつながるから、まずは自分がしっかり守っていきたい。</li> </ul>	<p>それぞれの立場を視覚化できるようにする。</p> <p>◆賛成派、反対派のそれぞれの主張を分けて聞くようにする。</p> <p>◆討論を通じて立場が変わってもよいことを伝える。</p> <p>◆各立場の主張を踏まえて反論をするようにする。</p> <p>●反論する立場の人にはどうしたら守れるのかを併せて聞き、4者のどの視点を大切にするのかを考えることで、法によらない解決策を考えることができるようにする。</p> <p>◆4者のうち、「自分」たちが「法・きまり」を守ることにより安全になることを整理してとらえられるようにする。</p> <p>【関心・意欲・態度②】 地域社会の一員としてどうすることで安全なくらしが守られるのか考え、自分の考えを示している。 (発言・ノートの記述)</p>
---	--	--

## 8 板書計画

